

学校コード F127310108223
注3

設置年度 令和 2年度
計画の区分： 学部の設置
注1

届出

注2
大阪人間科学大学 保健医療学部 言語聴覚学科

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

学校法人 薫英学園
令和5年5月1日現在

作成担当者	
担当部局(課)名	教務課
職名・氏名	カチョウ ニシダ ヨシヒロ 課長 西田 佳弘
電話番号	06-6381-3000
(夜間)	06-6381-3000
e-mail	ohs-kyomu@kun.ohs.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

保健医療学部

<言語聴覚学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	18
4. 既設大学等の状況	19
5. 教員組織の状況	20
6. 附帯事項等に対する履行状況等	32
7. その他全般的事項	33

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 薫英学園

(2) 大学名

大阪人間科学大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒566-8501

大阪府摂津市正雀1丁目4番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(オガワ ミチオ) 小川 道雄 (昭和60年10月)		
学長	(タナカ ヤスカズ) 田中 保和 (平成29年4月)	(イノウエ ヒロシ) 井上 博司 (令和3年4月)	任期満了のため 令和3年4月1日 (3)
学部長	(ヤマギシ マサカズ) 山岸 正和 (令和2年4月)		
学科長等	(カワイ ヒサカズ) 川井 久和 (令和2年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)

令和5年度に報告する内容 → (5)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和5年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含まれていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
保健医療学部 言語聴覚学科 学士（言語聴覚学）	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）	4年	40人	2年次 —人 3年次 —人 4年次 —人	160人	—	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「—」を選択。）

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率（控除後）	収容定員充足率	収容定員充足率（控除後）	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	() []	() []	() []	() []	40 (—) [—]	(—) [—]	40 (—) [—]	(—) [—]	40 (—) [—]	(—) [—]	40 (—) [—]	(—) [—]	0.74倍	—	0.61倍	—	
志願者数	() []	() []	() []	() []	91 (—) [—]	(—) [—]	57 (—) [—]	(—) [—]	62 (—) [—]	(—) [—]	41 (—) [—]	(—) [—]					
受験者数	() []	() []	() []	() []	83 (—) [—]	(—) [—]	53 (—) [—]	(—) [—]	56 (—) [—]	(—) [—]	38 (—) [—]	(—) [—]					
合格者数	() []	() []	() []	() []	57 (—) [—]	(—) [—]	44 (—) [—]	(—) [—]	48 (—) [—]	(—) [—]	35 (—) [—]	(—) [—]					
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	37 (—) [—]	(—) [—]	28 (—) [—]	(—) [—]	29 (—) [—]	(—) [—]	26 (—) [—]	(—) [—]					
入学定員超過率 B/A					0.92		0.70		0.72		0.65						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「—」を記入してください。
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、()書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「平均入学定員超過率（控除後）」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「—」としてください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和6年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	37 [-] (-)	[-] (-)	28 [-] (-)	[-] (-)	29 [-] (-)	[-] (-)	26 [-] (-)	[-] (-)	
2年次	/		[] ()	[] ()	[-] (-)	[-] (-)	37 [-] (-)	[-] (-)	27 [-] (-)	[-] (-)	28 [-] (-)	[-] (-)	
3年次			/		[] ()	[] ()	[-] (-)	[-] (-)	[] ()	[] ()	27 [-] (-)	[-] (-)	22 [-] (-)
4年次	/				[] ()	[] ()	[-] (-)	[-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	22 [-] (-)
計			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	37 [-] (-)	[-] (-)	65 [-] (-)	[-] (-)	83 [-] (-)	[-] (-)	98 [-] (-)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	37人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	65人	10人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	9人	人	就学意欲の低下(1人)、他の教育機関への転学(2人)、学生個人の心身に関する事情(1人)、家庭の事情(3人)、除籍(2人)
			令和3年度	1人	人	他の教育機関への転学(1人)
令和4年度	83人	9人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	5人	人	就学意欲の低下(2人)、学力不足(1人)、学生個人の心身に関する事情(1人)、家庭の事情(1人)
			令和3年度	3人	人	学力不足(2人)、学生個人の心身に関する事情(1人)
			令和4年度	1人	人	学生個人の心身に関する事情(1人)
令和5年度	98人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
合計		19人		19人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(0人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{37} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{10}{65} = \boxed{15.38} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{9}{83} = \boxed{10.84} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{98} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<保健医療学部 言語聴覚学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	FA演習	1前	2				1		3			
	対人援助演習Ⅰ	1前	1								兼9	
	対人援助演習Ⅱ	1後	1				1		2		兼12	
	人権と倫理	1後	2								兼1	
	人間関係Ⅰ	1前・1後	2				1					
	医療倫理	1後		2							兼1	
	日本語基礎	1前		2							兼1	
	文章表現法	1後		2							兼1	
	ソーシャルマナーⅠ	1前		2							兼1	
	ソーシャルマナーⅡ	1後		2							兼1	
	キャリアデザインⅠ	1前		2							兼1	
	キャリアデザインⅡ	2後		2							兼1	
	社会学	1前	2								兼1	
	生活と統計	2前	2								兼1	
	社会調査論	1後		2							兼1	
	数学の原理	1前		2							兼1	
	生物学	1後	2								兼1	
	聴覚障害者への理解と手話	1前		2							兼1	
	視覚障害者への理解と点字	1後		2							兼1	
	多文化共生	1後		2							兼1	
	情報処理演習Ⅰ	1前		1							兼1	
	情報処理演習Ⅱ	1前・1後		1							兼1	
	スポーツ実技Ⅰ	1通		2							兼3	
	スポーツ実技Ⅱ	1通		2							兼2	
	ヘルスプロモーション	1前		1							兼1	
	オールワークショップ(英語)Ⅰ	1前		1							兼4	
	オールワークショップ(英語)Ⅱ	1後		1							兼4	
	コミュニケーション(英語)Ⅰ	2前		1							兼2	
	コミュニケーション(英語)Ⅱ	2後		1							兼2	
	医療英語	2後		1							兼1	
簿記会計	1後		2							兼1		
社会人基礎学力(数学)	1前・1後		2							兼1		
キャリアデザインⅢ	3後		2			1						
キャリアデザインⅣ	3後		2			1						
プレ演習Ⅰ	2前	2				1		3				
プレ演習Ⅱ	2後	2				1		3				
社会福祉Ⅰ	1前	2								兼1		
社会問題論	1後	2								兼1		
ジェンダー論	2前		2							兼1		
人間工学	2後		2							兼1		
心理学入門	1前		2							兼1		
発達心理学	2前	2								兼1		
障害者の心理	2後		2							兼1		

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	FA演習	1前	2				1	1	3			
	対人援助演習Ⅰ	1前	1								兼7	
	対人援助演習Ⅱ	1後	1				1		2		兼12	
	人権と倫理	1後	2								兼1	
	人間関係Ⅰ	1前・1後	2				1					
	医療倫理	1後		2							兼1	
	日本語基礎	1前		2							兼2	
	文章表現法	1後		2							兼2	
	ソーシャルマナーⅠ	1前		2							兼1	
	ソーシャルマナーⅡ	1後		2							兼1	
	キャリアデザインⅠ	1前		2							兼1	
	キャリアデザインⅡ	2後		2							兼1	
	社会学	1前	2								兼2	
	生活と統計	2前	2								兼1	
	社会調査論	1後		2							兼1	
	数学の原理	1前		2							兼1	
	生物学	1後	2								兼1	
	聴覚障害者への理解と手話	1前		2							兼1	
	視覚障害者への理解と点字	1後		2							兼1	
	多文化共生	1後		2							兼1	
	情報処理演習Ⅰ	1前		1							兼3	
	情報処理演習Ⅱ	1前・1後		1							兼2	
	スポーツ実技Ⅰ	1通		2							兼4	
	スポーツ実技Ⅱ	1通		2							兼2	
	ヘルスプロモーション	1前		1							兼1	
	オールワークショップ(英語)Ⅰ	1前		1							兼6	
	オールワークショップ(英語)Ⅱ	1後		1							兼6	
	コミュニケーション(英語)Ⅰ	2前		1							兼2	
	コミュニケーション(英語)Ⅱ	2後		1							兼2	
	医療英語	2後		1							兼1	
簿記会計	1後		2							兼1		
社会人基礎学力(数学)	1前・1後		2							兼1		
キャリアデザインⅢ	3後		2			1						
キャリアデザインⅣ	3後		2			1						
プレ演習Ⅰ	2前	2					1	1	2			
プレ演習Ⅱ	2後	2					1	1	2			
社会福祉Ⅰ	1前	2								兼1		
社会問題論	1後	2								兼1		
ジェンダー論	2前		2							兼1		
人間工学	2後		2							兼1		
心理学入門	1前		2							兼2		
発達心理学	2前	2								兼2		
障害者の心理	2後		2							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	高齢者の心理	2後		2								兼1
	医学知識	1前・1後		2								兼1
	リハビリテーション概論	1前		2								兼1
	精神医学 I	2前	2			1						
	教育心理学	1後		2								兼1
	特別支援教育原論	1前		2								兼1
	小計(49科目)	-										
(専門共通科目)	医療安全管理学	1前		1								兼1
	チーム医療論演習	1後		1								兼1
	内科学	1後	2									兼1
	人間発達学	1後		2								兼1
	臨床心理学	3前	2									兼1
	リハビリテーション工学	2前		2								兼1
	地域リハビリテーション学	3前		2								兼1
小計(7科目)	-											
(言語聴覚学専門科目)	基礎医学 I (医学総論・病理学)	1前	2			1						
	基礎医学 II (解剖学・生理学)	1前	2			1						
	臨床医学 I (リハビリテーション医学)	1後	2			1						
	臨床医学 II (臨床神経学)	1前	2			1						
	臨床医学 III (小児科学)	1後	2									兼1
	臨床医学 IV (耳鼻咽喉科学・聴覚医学)	1前	2			1						
	臨床医学 V (臨床歯科学・口腔外科学・形成外科学)	1後	2			1						
	心理測定法	2後	2									兼1
	聴覚心理学	2後	2									兼1
	言語発達学	1後	2						1			
	学習心理学	2前	2									兼1
	言語学	1後	2									兼1
	音声学	1前	2									兼1
	音響学	1後	2									兼1
	言語聴覚障害学	1前	2			1						
	言語聴覚障害学演習	4前	1			1	1		3			
	言語聴覚障害学診断学	1後	2						1			
	失語症 I	2前	2						1			
	失語症 II	2後	2						1			
	高次脳機能障害学 I	2前	2				1					
	高次脳機能障害学 II	2後	2				1					
	高次脳機能障害学演習	3前	1				1					
	言語発達障害学 I	2前	2						1			
	言語発達障害学 II	2後	2						1			
	発声発語障害学 I (運動障害性構音障害・音声障害・吃音)	2前	2				1					
	発声発語障害学 II (運動障害性構音障害・音声障害・吃音)	2後	2				1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	高齢者の心理	2後		2								兼1
	医学知識	1前・1後		2								兼1
	リハビリテーション概論	1前		2								兼1
	精神医学 I	2前	2			1						
	教育心理学	1後		2								兼1
	特別支援教育原論	1前		2								兼1
	小計(49科目)	-										
(専門共通科目)	医療安全管理学	1前		1								兼3
	チーム医療論演習	1後		1								兼1
	内科学	1後	2				1					
	人間発達学	1後		2								兼1
	臨床心理学	3前	2									兼1
	リハビリテーション工学	2前		2								兼1
	地域リハビリテーション学	3前		2								兼1
小計(7科目)	-											
(言語聴覚学専門科目)	基礎医学 I (医学総論・病理学)	1前	2									兼1
	基礎医学 II (解剖学・生理学)	1前	2									兼1
	臨床医学 I (リハビリテーション医学)	1後	2					1				
	臨床医学 II (臨床神経学)	1前	2					1				
	臨床医学 III (小児科学)	1後	2					1				
	臨床医学 IV (耳鼻咽喉科学・聴覚医学)	1前	2							1		兼8
	臨床医学 V (臨床歯科学・口腔外科学・形成外科学)	1後	2									兼1
	心理測定法	2後	2									兼1
	聴覚心理学	2前	2							1		
	言語発達学	1後	2							1		
	学習心理学	2前	2									兼1
	言語学	1前	2							1		
	音声学	1前	2							1		
	音響学	1後	2							1		
	言語聴覚障害学	1後	2					1				
	言語聴覚障害学演習	4前	1					1	1	1	3	
	言語聴覚障害学診断学	1後	2								1	
	失語症 I	2前	2								1	
	失語症 II	2後	2								1	
	高次脳機能障害学 I	2前	2						1			
	高次脳機能障害学 II	2後	2						1			
	高次脳機能障害学演習	3前	1						1		1	
	言語発達障害学 I	2前	2							1		
	言語発達障害学 II	2後	2							1		
	発声発語障害学 I (運動障害性構音障害・音声障害・吃音)	2前	2						1			
	発声発語障害学 II (運動障害性構音障害・音声障害・吃音)	2後	2						1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
(言語聴覚学専攻専門科目)	発声発語障害学Ⅲ(器質性構音障害・機能性構音障害)	2後	2						1			
	発声発語障害学演習(運動障害性構音障害・音声障害・吃音)	3前	1			1			1			
	嚥下障害Ⅰ	2前	2			1						
	嚥下障害Ⅱ	2後	2			1						
	聴覚障害学Ⅰ	2前	2						1			
	聴覚障害学Ⅱ	2後	2						1			
	聴覚障害学演習(含む聴力検査法)	3前	1						1			
	補聴器・人工内耳	3前	2						1			
	言語聴覚特別演習Ⅰ	3後	1			1	1		3			
	言語聴覚特別演習Ⅱ	4後	1			2	1		3			
	言語聴覚特別演習Ⅲ	4後	1			2	1		3			
	言語聴覚特別演習Ⅳ	4後	1			2	1		3			
	言語聴覚学見学実習	2前	1			1	1		3			
	言語聴覚学実習Ⅰ	3後	5			1	1		3			
	言語聴覚学実習Ⅱ	4前	6			1	1		3			
	言語聴覚学演習Ⅰ	3通	4			1	1		3			
	言語聴覚学演習Ⅱ	4通	4			1	1		3			
	小計(43科目)	-										
合計(99科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
卒業必修科目を含む基礎科目32単位以上(ただし外国語4単位、健康体育2単位を含む。)、卒業必修科目を含む専門科目92単位以上を修得し、124単位以上を修得すること。なお、言語聴覚士国家試験受験資格取得を卒業要件とする。【履修科目の登録の上限】48単位(年間:ただし、集中講義等は除く、また成績優秀者については別途8単位の履修を可とする)												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
(言語聴覚学専攻専門科目)	発声発語障害学Ⅲ(器質性構音障害・機能性構音障害)	2前	2						1			
	発声発語障害学演習(運動障害性構音障害・音声障害・吃音)	3前	1				1		1			
	嚥下障害Ⅰ	2前	2				1					
	嚥下障害Ⅱ	2後	2				1					
	聴覚障害学Ⅰ	2前	2							1		
	聴覚障害学Ⅱ	2後	2							1		
	聴覚障害学演習(含む聴力検査法)	3前	1							1		
	補聴器・人工内耳	3前	2							1		
	言語聴覚特別演習Ⅰ	3後	1			1	1		1	1		
	言語聴覚特別演習Ⅱ	4後	1				1			2		
	言語聴覚特別演習Ⅲ	4後	1				1		1	2		
	言語聴覚特別演習Ⅳ	4後	1				1	1	1	3		
	言語聴覚学見学実習	2前	1				1	1	1	2		
	言語聴覚学実習Ⅰ	3後	5				1	1	1	2		
	言語聴覚学実習Ⅱ	4前	6				1	1	1	2		
	言語聴覚学演習Ⅰ	3通	4				1	1	1	3		
	言語聴覚学演習Ⅱ	4通	4				1	1	1	3		
	小計(43科目)	-										
合計(99科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
卒業必修科目を含む基礎科目32単位以上(ただし外国語4単位、健康体育2単位を含む。)、卒業必修科目を含む専門科目92単位以上を修得し、124単位以上を修得すること。なお、言語聴覚士国家試験受験資格取得を卒業要件とする。【履修科目の登録の上限】48単位(年間:ただし、集中講義等は除く、また成績優秀者については別途8単位の履修を可とする)												

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	FA演習	1前	2				1	1	2		
	対人援助演習Ⅰ	1前	1								兼8
	対人援助演習Ⅱ	1後	1			1			2		兼12
	人権と倫理	1後	2								兼1
	人間関係Ⅰ	1前・1後	2			1					
	医療倫理	1後	2								兼1
	日本語基礎	1前	2								兼2
	文章表現法	1後	2								兼2
	ソーシャルマナーⅠ	1前	2								兼1
	ソーシャルマナーⅡ	1後	2								兼1
	キャリアデザインⅠ	1前	2								兼1
	キャリアデザインⅡ	2後	2								兼1
	社会学	1前	2								兼2
	生活と統計	2前	2								兼1
	社会調査論	1後	2								兼1
	数学の原理	1前	2								兼1
	生物学	1後	2								兼1
	聴覚障害者への理解と手話	1前	2								兼1
	視覚障害者への理解と点字	1後	2								兼1
	多文化共生	1後	2								兼1
	情報処理演習Ⅰ	1前	1								兼3
	情報処理演習Ⅱ	1後	1								兼3
	スポーツ実技Ⅰ	1通	2								兼4
	スポーツ実技Ⅱ	1通	2								兼2
	ヘルスプロモーション	1前	1								兼1
	オールワークショップ(英語)Ⅰ	1前	1								兼5
	オールワークショップ(英語)Ⅱ	1後	1								兼5
	コミュニケーション(英語)Ⅰ	2前	1								兼2
	コミュニケーション(英語)Ⅱ	2後	1								兼2
	医療英語	2後	1								兼1
	簿記会計	1後	2								兼1
	社会人基礎学力(数学)	1前・1後	2								兼1
キャリアデザインⅢ	3後	2			1						
キャリアデザインⅣ	3後	2			1						
プレ演習Ⅰ	2前	2				1	1	2			
プレ演習Ⅱ	2後	2				1	1	2			
社会福祉Ⅰ	1前	2								兼1	
社会問題論	1後	2								兼1	
ジェンダー論	2前	2								兼1	
人間工学	2後	2								兼1	
心理学入門	1前	2								兼1	
発達心理学	2前	2								兼2	
障害者の心理	2後	2								兼1	

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	FA演習	1前	2				1	1	2		
	対人援助演習Ⅰ	1前	1								兼7
	対人援助演習Ⅱ	1後	1						2		兼13
	人権と倫理	1後	2								兼1
	人間関係Ⅰ	1前・1後	2				1				
	医療倫理	1後	2								兼1
	日本語基礎	1前	2								兼2
	文章表現法	1後	2								兼2
	ソーシャルマナーⅠ	1前	2								兼1
	ソーシャルマナーⅡ	1後	2								兼1
	キャリアデザインⅠ	1前	2								兼1
	キャリアデザインⅡ	2後	2								兼1
	社会学	1前	2								兼1
	生活と統計	2前	2								兼1
	社会調査論	1後	2								兼1
	数学の原理	1前	2								兼1
	生物学	1後	2								兼1
	聴覚障害者への理解と手話	1前	2								兼1
	視覚障害者への理解と点字	1後	2								兼1
	多文化共生	1後	2								兼1
	情報処理演習Ⅰ	1前	1								兼2
	情報処理演習Ⅱ	1後	1								兼2
	スポーツ実技Ⅰ	1通	2								兼4
	スポーツ実技Ⅱ	1通	2								兼2
	ヘルスプロモーション	1前	1								兼1
	オールワークショップ(英語)Ⅰ	1前	1								兼4
	オールワークショップ(英語)Ⅱ	1後	1								兼5
	コミュニケーション(英語)Ⅰ	2前	1								兼2
	コミュニケーション(英語)Ⅱ	2後	1								兼2
	医療英語	2後	1								兼1
	簿記会計	1後	2								兼1
	社会人基礎学力(数学)	1前・1後	2								兼1
キャリアデザインⅢ	3後	2				1					
キャリアデザインⅣ	3後	2				1					
プレ演習Ⅰ	2前	2					1	1	2		
プレ演習Ⅱ	2後	2					1	1	2		
社会福祉Ⅰ	1前	2								兼1	
社会問題論	1後	2								兼1	
ジェンダー論	2前	2								兼1	
人間工学	2後	2								兼1	
心理学入門	1前	2								兼1	
発達心理学	2前	2								兼1	
障害者の心理	2後	2								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	高齢者の心理	2後		2								兼1
	医学知識	1前・1後		2								兼1
	リハビリテーション概論	1前		2								兼1
	精神医学 I	2前	2			1						
	教育心理学	1後		2								兼1
	特別支援教育原論	1前		2								兼1
	小計(49科目)	-										
(専門共通科目)	医療安全管理学	1前		1								兼1
	チーム医療論演習	1後		1								兼1
	内科学	1後	2			1						
	人間発達学	1後		2								兼1
	臨床心理学	3前	2									兼2
	リハビリテーション工学	2前		2								兼1
	地域リハビリテーション学	3前		2								兼1
小計(7科目)	-											
(言語聴覚学科専門科目)	基礎医学 I (医学総論・病理学)	1前	2									兼1
	基礎医学 II (解剖学・生理学)	1前	2									兼1
	臨床医学 I (リハビリテーション医学)	1後	2			1						
	臨床医学 II (臨床神経学)	1前	2			1						
	臨床医学 III (小児科学)	1後	2			1						
	臨床医学 IV (耳鼻咽喉科学・聴覚医学)	1前	2					1				兼8
	臨床医学 V (臨床歯科学・口腔外科学・形成外科学)	1後	2									兼1
	心理測定法	2後	2									兼1
	聴覚心理学	2後	2									兼1
	言語発達学	1後	2					1				
	学習心理学	2前	2									兼1
	言語学	1前	2					1				
	音声学	1前	2					1				
	音響学	1後	2					1				
	言語聴覚障害学	1後	2			1						
	言語聴覚障害学演習	4前	1			1	1		3			
	言語聴覚障害学診断学	1後	2						1			
	失語症 I	2前	2						1			
	失語症 II	2後	2						1			
	高次脳機能障害学 I	2前	2				1					
	高次脳機能障害学 II	2後	2				1					
	高次脳機能障害学演習	3前	1				1		1			
	言語発達障害学 I	2前	2						1			
言語発達障害学 II	2後	2						1				
発声発語障害学 I (運動障害性構音障害・音声障害・吃音)	2前	2				1						
発声発語障害学 II (運動障害性構音障害・音声障害・吃音)	2後	2				1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	高齢者の心理	2後		2								兼1
	医学知識	1前・1後		2								兼1
	リハビリテーション概論	1前		2								兼1
	精神医学 I	2前	2			1						
	教育心理学	1後		2								兼1
	特別支援教育原論	1前		2								兼1
	小計(49科目)	-										
(専門共通科目)	医療安全管理学	1前		1								兼1
	チーム医療論演習	1後		1								兼1
	内科学	1後	2			1						
	人間発達学	1後		2								兼1
	臨床心理学	3前	2									兼1
	リハビリテーション工学	2前		2								兼1
	地域リハビリテーション学	3前		2								兼1
小計(7科目)	-											
(言語聴覚学科専門科目)	基礎医学 I (医学総論・病理学)	1前	2									兼1
	基礎医学 II (解剖学・生理学)	1前	2									兼1
	臨床医学 I (リハビリテーション医学)	1後	2					1				
	臨床医学 II (臨床神経学)	1前	2					1				
	臨床医学 III (小児科学)	1後	2					1				
	臨床医学 IV (耳鼻咽喉科学・聴覚医学)	1前	2									兼1
	臨床医学 V (臨床歯科学・口腔外科学・形成外科学)	1後	2									兼1
	心理測定法	2後	2									兼1
	聴覚心理学	2後	2									兼1
	言語発達学	1後	2							1		
	学習心理学	2前	2									兼1
	言語学	1前	2							1		
	音声学	1前	2							1		
	音響学	1後	2							1		
	言語聴覚障害学	1後	2					1				
	言語聴覚障害学演習	4前	1				1	1		3		
	言語聴覚障害学診断学	1後	2							1		
	失語症 I	2前	2							1		
	失語症 II	2後	2							1		
	高次脳機能障害学 I	2前	2						1			
	高次脳機能障害学 II	2後	2						1			
	高次脳機能障害学演習	3前	1						1			
	言語発達障害学 I	2前	2							1		
言語発達障害学 II	2後	2							1			
発声発語障害学 I (運動障害性構音障害・音声障害・吃音)	2前	2							1			
発声発語障害学 II (運動障害性構音障害・音声障害・吃音)	2後	2							1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
(言語聴覚学専門科目)	発声発語障害学Ⅲ (器質性構音障害・機能性構音障害)	2前	2					1				
	発声発語障害学Ⅲ (器質性構音障害・機能性構音障害) 充戸充語障害字演習(運動障害性構音障害・音声障害・吃音)	3前	1				1	1				
	嚥下障害Ⅰ	2前	2			1						
	嚥下障害Ⅱ	2後	2			1						
	聴覚障害学Ⅰ	2前	2						1			
	聴覚障害学Ⅱ	2後	2						1			
	聴覚障害学演習 (含む聴力検査法)	3前	1						1			
	補聴器・人工内耳	3前	2						1			
	言語聴覚特別演習Ⅰ	3後	1			1	1	1	1			
	言語聴覚特別演習Ⅱ	4後	1			2	1		3			
	言語聴覚特別演習Ⅲ	4後	1			2	1		3			
	言語聴覚特別演習Ⅳ	4後	1			2	1		3			
	言語聴覚学見学 実習	2前	1			1	1	1	2			
	言語聴覚学実習Ⅰ	3後	5			1	1	1	2			
	言語聴覚学実習Ⅱ	4前	6			1	1		3			
	言語聴覚学演習Ⅰ	3通	4			1	1	1	3			
	言語聴覚学演習Ⅱ	4通	4			1	1		3			
	小計(43科目)	-										
合計(99科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
卒業必修科目を含む基礎科目32単位以上(ただし外国語4単位、健康体育2単位を含む。)、卒業必修科目を含む専門科目92単位以上を修得し、124単位以上を修得すること。なお、言語聴覚士国家試験受験資格取得を卒業要件とする。 【履修科目の登録の上限】48単位(年間:ただし、集中講義等は除く、また成績優秀者については別途8単位の履修を可とする)												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
(言語聴覚学専門科目)	発声発語障害学Ⅲ (器質性構音障害・機能性構音障害)	2前	2					1				
	発声発語障害学Ⅲ (器質性構音障害・機能性構音障害) 充戸充語障害字演習(運動障害性構音障害・音声障害・吃音)	3前	1				1		1			
	嚥下障害Ⅰ	2前	2			1						
	嚥下障害Ⅱ	2後	2			1						
	聴覚障害学Ⅰ	2前	2							1		
	聴覚障害学Ⅱ	2後	2							1		
	聴覚障害学演習 (含む聴力検査法)	3前	1						1			
	補聴器・人工内耳	3前	2						1			
	言語聴覚特別演習Ⅰ	3後	1			1	1		3			
	言語聴覚特別演習Ⅱ	4後	1			2	1		3			
	言語聴覚特別演習Ⅲ	4後	1			2	1		3			
	言語聴覚特別演習Ⅳ	4後	1			2	1		3			
	言語聴覚学見学 実習	2前	1			1	1	1	2			
	言語聴覚学実習Ⅰ	3後	5			1	1	1	3			
	言語聴覚学実習Ⅱ	4前	6			1	1		3			
	言語聴覚学演習Ⅰ	3通	4			1	1	1	3			
	言語聴覚学演習Ⅱ	4通	4			1	1		3			
	小計(43科目)	-										
合計(99科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
卒業必修科目を含む基礎科目32単位以上(ただし外国語4単位、健康体育2単位を含む。)、卒業必修科目を含む専門科目92単位以上を修得し、124単位以上を修得すること。なお、言語聴覚士国家試験受験資格取得を卒業要件とする。 【履修科目の登録の上限】48単位(年間:ただし、集中講義等は除く、また成績優秀者については別途8単位の履修を可とする)												

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	FA演習	1前	2				1			3		
	対人援助演習Ⅰ	1前	1									兼8
	対人援助演習Ⅱ	1後	1			1				2		兼12
	人権と倫理	1後	2									兼1
	人間関係Ⅰ	1前・1後	2			1						
	医療倫理	1後		2								兼1
	日本語基礎	1前		2								兼2
	文章表現法	1後		2								兼2
	ソーシャルマナーⅠ	1前		2								兼1
	ソーシャルマナーⅡ	1後		2								兼1
	キャリアデザインⅠ	1前		2								兼1
	キャリアデザインⅡ	2後		2								兼1
	社会学	1前	2									兼1
	生活と統計	2前	2									兼1
	社会調査論	1後		2								兼1
	数学の原理	1前		2								兼1
	生物学	1後	2									兼1
	聴覚障害者への理解と手話	1前		2								兼1
	視覚障害者への理解と点字	1後		2								兼1
	多文化共生	1後		2								兼1
	情報処理演習Ⅰ	1前		1								兼2
	情報処理演習Ⅱ	1後		1								兼2
	スポーツ実技Ⅰ	1通		2								兼4
	スポーツ実技Ⅱ	1通		2								兼2
	ヘルスプロモーション	1前		1								兼1
	オールワークショップ(英語)Ⅰ	1前		1								兼5
	オールワークショップ(英語)Ⅱ	1後		1								兼5
	コミュニケーション(英語)Ⅰ	2前		1								兼2
	コミュニケーション(英語)Ⅱ	2後		1								兼2
	医療英語	2後		1								兼1
	簿記会計	1後		2								兼1
	社会人基礎学力(数学)	1前・1後		2								兼1
	キャリアデザインⅢ	3後		2		1						
	キャリアデザインⅣ	3後		2		1						
	プレ演習Ⅰ	2前	2				1			3		
	プレ演習Ⅱ	2後	2				1			3		
社会福祉Ⅰ	1前	2									兼1	
社会問題論	1後	2									兼1	
ジェンダー論	2前		2								兼1	
人間工学	2後		2								兼1	
心理学入門	1前		2								兼2	
発達心理学	2前	2									兼1	
障害者の心理	2後		2								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	高齢者の心理	2後		2								兼1
	医学知識	1前・1後		2								兼1
	リハビリテーション概論	1前		2								兼1
	精神医学 I	2前	2			1						
	教育心理学	1後		2								兼1
	特別支援教育原論	1前		2								兼1
	小計(49科目)	-										
(専門共通科目)	医療安全管理学	1前		1								兼1
	チーム医療論演習	1後		1								兼1
	内科学	1後	2			1						
	人間発達学	1後		2								兼1
	臨床心理学	3前	2									兼1
	リハビリテーション工学	2前		2								兼1
	地域リハビリテーション学	3前		2								兼1
小計(7科目)	-											
(言語聴覚学専攻専門科目)	基礎医学 I (医学総論・病理学)	1前	2									兼1
	基礎医学 II (解剖学・生理学)	1前	2									兼1
	臨床医学 I (リハビリテーション医学)	1後	2			1						
	臨床医学 II (臨床神経学)	1前	2			1						
	臨床医学 III (小児科学)	1後	2			1						
	臨床医学 IV (耳鼻咽喉科学・聴覚医学)	1前	2									兼1
	臨床医学 V (臨床歯科学・口腔外科学・形成外科学)	1後	2									兼1
	心理測定法	2後	2									兼1
	聴覚心理学	2後	2									兼1
	言語発達学	1後	2						1			
	学習心理学	2前	2									兼1
	言語学	1後	2						1			
	音声学	1前	2						1			
	音響学	1後	2						1			
	言語聴覚障害学	1後	2			1						
	言語聴覚障害学演習	4前	1			1	1		3			
	言語聴覚障害学診断学	1後	2						1			
	失語症 I	2前	2						1			
	失語症 II	2後	2						1			
	高次脳機能障害学 I	2前	2				1					
	高次脳機能障害学 II	2後	2				1					
	高次脳機能障害学演習	3前	1				1					
	言語発達障害学 I	2前	2						1			
	言語発達障害学 II	2後	2						1			
	発声発語障害学 I (運動障害性構音障害・音声障害・吃音)	2前	2				1					
	発声発語障害学 II (運動障害性構音障害・音声障害・吃音)	2後	2				1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
(言語聴覚専門科目)	発声発語障害学Ⅲ (器質性構音障害・機能性構音障害)	2後	2						1		
	発声発語障害学Ⅲ 演習(運動障害性構音障害・音声障害・吃音)	3前	1				1		1		
	嚥下障害Ⅰ	2前	2			1					
	嚥下障害Ⅱ	2後	2			1					
	聴覚障害学Ⅰ	2前	2						1		
	聴覚障害学Ⅱ	2後	2						1		
	聴覚障害学演習 (含む聴力検査法)	3前	1						1		
	補聴器・人工内耳	3前	2						1		
	言語聴覚特別演習Ⅰ	3後	1			1	1		3		
	言語聴覚特別演習Ⅱ	4後	1			2	1		3		
	言語聴覚特別演習Ⅲ	4後	1			2	1		3		
	言語聴覚特別演習Ⅳ	4後	1			2	1		3		
	言語聴覚学見学 実習	2前	1			1	1		3		
	言語聴覚学実習Ⅰ	3後	5			1	1		3		
	言語聴覚学実習Ⅱ	4前	6			1	1		3		
	言語聴覚学演習Ⅰ	3通	4			1	1		3		
	言語聴覚学演習Ⅱ	4通	4			1	1		3		
	小計(43科目)	-									
	合計(99科目)	-									
	卒業要件及び履修方法										
卒業必修科目を含む基礎科目32単位以上(ただし外国語4単位、健康体育2単位を含む。)、卒業必修科目を含む専門科目92単位以上を修得し、124単位以上を修得すること。なお、言語聴覚士国家試験受験資格取得を卒業要件とする。 【履修科目の登録の上限】48単位(年間:ただし、集中講義等は除く、また成績優秀者については別途8単位の履修を可とする)											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・「対人援助演習Ⅰ」の兼任教員の配置を「兼9」から「兼8」に変更。
- ・「日本語基礎」「文章表現法」の兼任・兼任教員の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・「情報処理演習Ⅱ」の配当年次を「1前・1後」から「1後」に変更。
- ・「スポーツ実技Ⅰ」の兼任教員の配置を「兼3」から「兼4」に変更。
- ・「オーラルワークショップ（英語）Ⅰ」「オーラルワークショップ（英語）Ⅱ」の兼任教員の配置を「兼4」から「兼5」に変更。
- ・「心理学入門」の兼任教員の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・「内科学」の教員の配置を「兼1」から「教授1」に変更。
- ・「基礎医学Ⅰ（医学総論・病理学）」「基礎医学Ⅱ（解剖学・生理学）」の教員の配置を「教授1」から「兼1」に変更。
- ・「臨床医学Ⅲ（小児科学）」の教員の配置を「兼1」から「教授1」に変更。
- ・「臨床医学Ⅳ（耳鼻咽喉科学・聴覚医学）」「臨床医学Ⅴ（臨床歯科学・口腔外科学・形成外科学）」の教員の配置を「教授1」から「兼1」に変更。
- ・「言語学」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・「言語学」「音声学」「音響学」の教員の配置を「兼1」から「助教1」に変更。
- ・「言語聴覚障害学」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。

【令和3年度】

- ・専任教員の職名変更のために「FA演習」「プレ演習Ⅰ」「プレ演習Ⅱ」「言語聴覚学見学実習」の専任教員の配置を「講師0」から「講師1」に、「助教3」から「助教2」に変更。
- ・「対人援助演習Ⅰ」の兼任教員の配置を「兼8」から「兼7」に変更。
- ・「対人援助演習Ⅱ」の専任教員の配置を「教授1」から「教授0」に、兼任教員の配置を「兼12」から「兼13」に変更。
- ・「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」の兼任教員の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・「言語学」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・専任教員の職名変更のために「言語発達障害学Ⅰ」「言語発達障害学Ⅱ」「発声発語障害学Ⅲ（器質性構音障害・機能性構音障害）」の専任教員の配置を「講師0」から「講師1」に、「助教1」から「助教0」に変更。
- ・「発声発語障害学Ⅲ（器質性構音障害・機能性構音障害）」の配当年次を「2後」から「2前」に変更。

【令和4年度】

- ・教育体制の充実のために「対人援助演習Ⅰ」の兼任教員の配置を「兼7」から「兼8」に変更。
- ・教育体制の充実のために「社会学」の兼任教員の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・教育体制の充実のために「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」の兼任教員の配置を「兼2」から「兼3」に変更。
- ・教育体制の充実のために「オーラルワークショップ（英語）Ⅰ」の兼任教員の配置を「兼4」から「兼5」に変更。
- ・教育体制の充実のために「発達心理学」の兼任教員の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・教育体制の充実のために「高次脳機能障害学演習」の専任教員の配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・教育体制の充実のために「臨床医学Ⅳ（耳鼻咽喉科学・聴覚医学）」の専任教員の配置を「助教0」から「助教1」に、兼任教員の配置を「兼1」から「兼8」に変更。
- ・教育体制の充実のために「高次脳機能障害学演習」の専任教員の配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・教育体制の充実のために「発生発語障害学演習（運動障害性構音障害・音声障害・吃音）」の専任教員の配置を「講師0」から「講師1」に、「助教1」から「助教0」に変更。
- ・「言語聴覚特別演習Ⅰ」の専任教員の配置を「講師0」から「講師1」に、「助教3」から「助教1」に変更。
- ・専任教員の職名変更のために「言語聴覚学実習Ⅰ」の専任教員の配置を「講師0」から「講師1」に、「助教3」から「助教2」に変更。
- ・教育体制の充実のために「言語聴覚学演習Ⅰ」の専任教員の配置を「講師0」から「講師1」に変更。

【令和5年度】

- ・「対人援助演習Ⅰ」の兼任教員の配置を「兼8」から「兼7」に変更。
- ・「情報処理演習Ⅱ」の兼任教員の配置を「兼3」から「兼2」に変更。
- ・教育体制の充実のために「オーラルワークショップ（英語）Ⅰ」「オーラルワークショップ（英語）Ⅱ」の兼任・兼任教員の配置を「兼5」から「兼6」に変更。
- ・教育体制の充実のために「心理学入門」の兼任教員の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・教育体制の充実のために「医療安全管理学」の兼任教員の配置を「兼1」から「兼3」に変更。
- ・教育体制の充実のために「聴覚心理学」の専任教員の配置を「助教0」から「助教1」に、兼任教員の配置を「兼1」から「兼0」に変更。
- ・「聴覚心理学」の配当年次を「2後」から「2前」に変更。
- ・教育体制の充実のために「言語聴覚障害学演習」の専任教員の配置を「講師0」から「講師1」に変更。
- ・「言語聴覚特別演習Ⅱ」の専任教員の配置を「教授2」から「教授1」に、「准教授1」から「准教授0」に、「助教3」から「助教2」に変更。
- ・「言語聴覚特別演習Ⅲ」の専任教員の配置を「教授2」から「教授0」に、「講師0」から「講師1」に、「助教3」から「助教2」に変更。
- ・「言語聴覚特別演習Ⅳ」の専任教員の配置を「教授2」から「教授1」に、「講師0」から「講師1」に変更。
- ・専任教員の職名変更のために「言語聴覚学実習Ⅱ」の専任教員の配置を「講師0」から「講師1」に、「助教3」から「助教2」に変更。
- ・教育体制の充実のために「言語聴覚学演習Ⅱ」の専任教員の配置を「講師0」から「講師1」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
59 科目	40 科目	0 科目	99 科目	59 科目 [0]	40 科目 [0]	0 科目 [0]	99 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{99} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区分		内容				備考			
(1) 校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	7,774.34㎡	0㎡	0㎡	7,774.34㎡				
	運動場用地	15,710.80㎡	0㎡	0㎡	15,710.80㎡				
	小計	23,485.14㎡	0㎡	0㎡	23,485.14㎡				
	その他	21,190.55㎡	0㎡	0㎡	21,190.55㎡				
	合計	44,675.69㎡	0㎡	0㎡	44,675.69㎡				
(2) 校舎	専用	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計				
	25,004.06㎡ (25,004.06㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	25,004.06㎡ (25,004.06㎡)				
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	33室	13室	48室	3室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室数		令和4年4月専任教授1名追加のため(4) 令和2年3月専任教授1名が辞任のため(3) 令和元年9月専任助教1名を新規採用のため(2)			
	保健医療学部 言語聴覚学科			9 8 9 8 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	図書、視聴覚資料の増は教育研究充実のため(5) 学術雑誌の減は主として廃刊や無料公開化のため(5) 図書、視聴覚資料の増は教育研究充実のため(4) 学術雑誌の減は主として廃刊や無料公開化のため(4) 図書、視聴覚資料、機械・器具、標本は学部単位での特定不能なため、大学全体の数	
	保健医療学部	107,080 [8,971] 106,213 [8,955] 104,849 [8,935] (107,080 [8,971]) (106,213 [8,955]) (104,849 [8,935])	125 [4] 128 [4] 132 [4] (125 [4]) (128 [4]) (132 [4])	5 [2] 4 [2] 3 [2] (5 [2]) (4 [2]) (3 [2])	5,882 5,791 5,607 (5,882) (5,791) (5,607)	947 (947)	59 (59)		
	計	107,080 [8,971] 106,213 [8,955] 104,849 [8,935] (107,080 [8,971]) (106,213 [8,955]) (104,849 [8,935])	125 [4] 128 [4] 132 [4] (125 [4]) (128 [4]) (132 [4])	5 [2] 4 [2] 3 [2] (5 [2]) (4 [2]) (3 [2])	5,882 5,791 5,607 (5,882) (5,791) (5,607)	947 (947)	59 (59)		
(6) 図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体			
	954.5㎡	214		105,000					
(7) 体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体			
	1,377.1㎡	野球場1面		テニスコート4面					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	経費の見積り等は、大学全体 なお、図書費にはデータベースの整備費(運用コスト含む)を含む
		教員1人当り研究費等	480千円	480千円	図書購入費	4,825千円	3,272千円	3,385千円	
	共同研究費等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	79,134千円	30,515千円	31,732千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,780千円	1,580千円	1,580千円	1,580千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	大阪人間科学大学					平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	1	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	1	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	1	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考
人間科学部	年	人	年次人	人		倍	倍	倍	倍	年度	年度		
社会福祉学科	4	195	3年次0	780	学士(社会福祉学)	0.82	—	0.74	—	—	平成13	—	
医療福祉学科 介護福祉専攻	4	80	—	320	学士(医療福祉学)	0.94	—	0.87	—	—	平成13	大阪府摂津市正雀1-4-1	令和2年度から入学定員変更(95→80)
医療福祉学科 視能訓練専攻	4	—	—	160	学士(医療福祉学)	—	—	—	—	—	平成24	同上	令和2年度入学生より学生募集停止
子ども教育学科	4	75	3年次0	300	学士(子ども教育学)	0.65	—	0.50	—	—	平成24	同上	令和2年度から入学定員変更(95→75)
健康心理学科	4	—	—	—	学士(心理学)	0.80	—	0.74	—	—	平成24	同上	令和2年度から入学定員変更(95→75)
医療心理学科 臨床発達心理専攻	4	—	—	—	学士(医療心理学)	—	—	—	—	—	平成17	同上	令和2年度入学生より学生募集停止
医療心理学科 言語聴覚専攻	4	—	—	—	学士(医療心理学)	—	—	—	—	—	平成24	同上	令和2年度入学生より学生募集停止
理学療法学科	4	—	—	—	学士(理学療法学)	—	—	—	—	—	平成28	同上	令和2年度入学生より学生募集停止
心理学部	4	90	—	360		1.19	—	1.11	—	—	令和2	—	
心理学科	4	90	3年次0	360	学士(心理学)	1.19	—	1.11	—	—	令和2	大阪府摂津市正雀1-4-1	
保健医療学部	4	140	—	560		0.88	—	0.74	—	—	令和2	—	
理学療法学科	4	60	—	240	学士(理学療法学)	0.99	—	0.88	—	—	令和2	大阪府摂津市正雀1-4-1	
作業療法学科	4	40	—	160	学士(作業療法学)	0.84	—	0.66	—	—	令和2	同上	
言語聴覚学科	4	40	—	160	学士(言語聴覚学)	0.74	—	0.61	—	—	令和2	同上	
大学全体	4	425	—	1700		0.92	—	0.82	—	—	—	—	

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 (様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)
- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「—」としてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<保健医療学部 言語聴覚学科>

(1) - ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

【令和3年度】

【令和4年度】

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授(学長)	田中 保和 (68) <令和2年4月> 工学修士	対人援助演習Ⅱ※	専	教授(学長)	田中 保和 (69) <令和2年4月> 工学修士	対人援助演習Ⅱ※	専	教授(学長)	井上 博司 (66) <令和3年4月> 学士(人間科学)	対人援助演習Ⅱ※	専	教授(学長)	井上 博司 (67) <令和3年4月> 学士(人間科学)	対人援助演習Ⅱ※
専	教授(副学長)(学部長)	山岸 正和 (67) <令和2年4月> 医学博士	キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ 基礎医学Ⅰ(医学総論・病理学) 基礎医学Ⅱ(解剖学・生理学) 臨床医学Ⅳ(耳鼻咽喉科学・聴覚医学) 臨床医学Ⅴ(臨床歯科学・口腔外科学・形成外科学) 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 人間関係Ⅰ	専	教授(副学長)(学部長)	山岸 正和 (68) <令和2年4月> 医学博士	キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 人間関係Ⅰ 内科学 臨床医学Ⅲ(小児科学)	専	教授(副学長)(学部長)	山岸 正和 (69) <令和2年4月> 医学博士	キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 人間関係Ⅰ 内科学 臨床医学Ⅲ(小児科学)	専	教授(副学長)(学部長)	山岸 正和 (71) <令和2年4月> 医学博士	キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ 人間関係Ⅰ 内科学 臨床医学Ⅲ(小児科学)
専	教授(学部長)	川井 久和 (55) <令和2年4月> 修士(密教学)	臨床医学Ⅰ(リハビリテーション医学) 臨床医学Ⅱ(臨床神経学) 言語聴覚障害学 言語聴覚障害学演習 嚥下障害Ⅰ 嚥下障害Ⅱ 言語聴覚特別演習Ⅰ※ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 言語聴覚学見学実習 言語聴覚学実習Ⅰ 言語聴覚学実習Ⅱ 言語聴覚学演習Ⅰ 言語聴覚学演習Ⅱ	専	教授(学部長)	川井 久和 (56) <令和2年4月> 修士(密教学)	臨床医学Ⅰ(リハビリテーション医学) 臨床医学Ⅱ(臨床神経学) 言語聴覚障害学 言語聴覚障害学演習 嚥下障害Ⅰ 嚥下障害Ⅱ 言語聴覚特別演習Ⅰ※ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 言語聴覚学見学実習 言語聴覚学実習Ⅰ 言語聴覚学実習Ⅱ 言語聴覚学演習Ⅰ 言語聴覚学演習Ⅱ	専	教授(学部長)	川井 久和 (57) <令和2年4月> 修士(密教学)	臨床医学Ⅰ(リハビリテーション医学) 臨床医学Ⅱ(臨床神経学) 言語聴覚障害学 言語聴覚障害学演習 嚥下障害Ⅰ 嚥下障害Ⅱ 言語聴覚特別演習Ⅰ※ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 言語聴覚学見学実習 言語聴覚学実習Ⅰ 言語聴覚学実習Ⅱ 言語聴覚学演習Ⅰ 言語聴覚学演習Ⅱ	専	教授(学部長)	川井 久和 (59) <令和2年4月> 修士(密教学)	臨床医学Ⅰ(リハビリテーション医学) 臨床医学Ⅱ(臨床神経学) 言語聴覚障害学 言語聴覚障害学演習 嚥下障害Ⅰ 嚥下障害Ⅱ 言語聴覚特別演習Ⅰ※ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 言語聴覚学見学実習 言語聴覚学実習Ⅰ 言語聴覚学実習Ⅱ 言語聴覚学演習Ⅰ 言語聴覚学演習Ⅱ
専	教授	加藤 敬徳 (65) <令和2年4月> 学士(医学)	精神医学Ⅰ	専	教授	加藤 敬徳 (66) <令和2年4月> 学士(医学)	精神医学Ⅰ	専	教授	加藤 敬徳 (67) <令和2年4月> 学士(医学)	精神医学Ⅰ	専	教授	加藤 敬徳 (69) <令和2年4月> 学士(医学)	精神医学Ⅰ
専	准教授	安井 美鈴 (57) <令和2年4月> 修士(人間科学)	FA演習 ブレ演習Ⅰ ブレ演習Ⅱ 言語聴覚障害学演習 高次脳機能障害学Ⅰ 高次脳機能障害学Ⅱ 高次脳機能障害学演習 発声発語障害学Ⅰ(運動障害性構音障害・音声障害・吃音) 発声発語障害学Ⅱ(運動障害性構音障害・音声障害・吃音) 発声発語障害学演習(運動障害性構音障害・音声障害・吃音)※ 言語聴覚特別演習Ⅰ※ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 言語聴覚学見学実習 言語聴覚学実習Ⅰ 言語聴覚学実習Ⅱ 言語聴覚学演習Ⅰ 言語聴覚学演習Ⅱ	専	准教授	安井 美鈴 (58) <令和2年4月> 修士(人間科学)	FA演習 ブレ演習Ⅰ ブレ演習Ⅱ 言語聴覚障害学演習 高次脳機能障害学Ⅰ 高次脳機能障害学Ⅱ 高次脳機能障害学演習 発声発語障害学Ⅰ(運動障害性構音障害・音声障害・吃音) 発声発語障害学Ⅱ(運動障害性構音障害・音声障害・吃音) 発声発語障害学演習(運動障害性構音障害・音声障害・吃音)※ 言語聴覚特別演習Ⅰ※ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 言語聴覚学見学実習 言語聴覚学実習Ⅰ 言語聴覚学実習Ⅱ 言語聴覚学演習Ⅰ 言語聴覚学演習Ⅱ	専	准教授	安井 美鈴 (59) <令和2年4月> 修士(人間科学)	FA演習 ブレ演習Ⅰ ブレ演習Ⅱ 言語聴覚障害学演習 高次脳機能障害学Ⅰ 高次脳機能障害学Ⅱ 高次脳機能障害学演習 発声発語障害学Ⅰ(運動障害性構音障害・音声障害・吃音) 発声発語障害学Ⅱ(運動障害性構音障害・音声障害・吃音) 発声発語障害学演習(運動障害性構音障害・音声障害・吃音)※ 言語聴覚特別演習Ⅰ※ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 言語聴覚学見学実習 言語聴覚学実習Ⅰ 言語聴覚学実習Ⅱ 言語聴覚学演習Ⅰ 言語聴覚学演習Ⅱ	専	准教授	安井 美鈴 (61) <令和2年4月> 修士(人間科学)	FA演習 ブレ演習Ⅰ ブレ演習Ⅱ 言語聴覚障害学演習 高次脳機能障害学Ⅰ 高次脳機能障害学Ⅱ 高次脳機能障害学演習 発声発語障害学Ⅰ(運動障害性構音障害・音声障害・吃音) 発声発語障害学Ⅱ(運動障害性構音障害・音声障害・吃音) 発声発語障害学演習(運動障害性構音障害・音声障害・吃音)※ 言語聴覚特別演習Ⅰ※ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 言語聴覚学見学実習 言語聴覚学実習Ⅰ 言語聴覚学実習Ⅱ 言語聴覚学演習Ⅰ 言語聴覚学演習Ⅱ
専	助教	青木 弥穂 (43) <令和2年4月> 学士(理学)	FA演習 対人援助演習Ⅱ※ ブレ演習Ⅰ ブレ演習Ⅱ 言語聴覚障害学演習 聴覚障害学Ⅰ 聴覚障害学Ⅱ 聴覚障害学演習(含む聴力検査法) 補聴器・人工内耳 言語聴覚特別演習Ⅰ※ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 言語聴覚学見学実習 言語聴覚学実習Ⅰ 言語聴覚学実習Ⅱ 言語聴覚学演習Ⅰ 言語聴覚学演習Ⅱ	専	助教	青木 弥穂 (44) <令和2年4月> 学士(理学)	FA演習 対人援助演習Ⅱ※ ブレ演習Ⅰ ブレ演習Ⅱ 言語聴覚障害学演習 聴覚障害学Ⅰ 聴覚障害学Ⅱ 聴覚障害学演習(含む聴力検査法) 補聴器・人工内耳 言語聴覚特別演習Ⅰ※ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 言語聴覚学見学実習 言語聴覚学実習Ⅰ 言語聴覚学実習Ⅱ 言語聴覚学演習Ⅰ 言語聴覚学演習Ⅱ	専	助教	青木 弥穂 (45) <令和2年4月> 学士(理学)	FA演習 対人援助演習Ⅱ※ ブレ演習Ⅰ ブレ演習Ⅱ 言語聴覚障害学演習 聴覚障害学Ⅰ 聴覚障害学Ⅱ 聴覚障害学演習(含む聴力検査法) 補聴器・人工内耳 言語聴覚特別演習Ⅰ※ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 言語聴覚学見学実習 言語聴覚学実習Ⅰ 言語聴覚学実習Ⅱ 言語聴覚学演習Ⅰ 言語聴覚学演習Ⅱ	専	助教	青木 弥穂 (47) <令和2年4月> 学士(理学)	FA演習 対人援助演習Ⅱ※ ブレ演習Ⅰ ブレ演習Ⅱ 言語聴覚障害学演習 聴覚障害学Ⅰ 聴覚障害学Ⅱ 聴覚障害学演習(含む聴力検査法) 補聴器・人工内耳 言語聴覚特別演習Ⅰ※ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 言語聴覚学見学実習 言語聴覚学実習Ⅰ 言語聴覚学実習Ⅱ 言語聴覚学演習Ⅰ 言語聴覚学演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	中川 昭夫 (69) <令和2年4月> 博士(保健学)	リハビリテーション工学
兼任	教授	日上 耕司 (59) <令和2年4月> 博士(心理学)	特別支援教育原論
兼任	教授	宮崎 佐利 (61) <令和2年4月> 教育学士	日本語基礎 文章表現法
兼任	教授	山川 友康 (72) <令和2年4月> 修士(社会学)	リハビリテーション概論 人間発達学
兼任	教授	山野 薫 (54) <令和2年4月> 博士(保健医療学)	医療安全管理学
兼任	教授	弓岡 光徳 (65) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)	チーム医療論演習
兼任	准教授	東 千冬 (57) <令和2年4月> 文学修士	対人援助演習Ⅱ※
兼任	准教授	城越 幸一 (56) <令和2年4月> 体育学士	対人援助演習Ⅱ※ スポーツ実技Ⅰ ヘルスプロモーション
兼任	准教授	秦 康宏 (55) <令和2年4月> 修士(学術)	多文化共生
兼任	准教授	榎田 浩三 (48) <令和2年4月> 医学修士	対人援助演習Ⅱ※
兼任	准教授	丸山 亜実 (48) <令和2年4月> 社会学士	対人援助演習Ⅱ※
兼任	講師	奥村 裕 (45) <令和2年4月> 修士(保健学)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	講師	金澤 佑治 (33) <令和2年4月> 博士(医学)	医療英語

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	中川 昭夫 (70) <令和2年4月> 博士(保健学)	リハビリテーション工学
兼任	教授	羽根 隆 (60) <令和2年4月> 文学士	オラルワークショップ(英語)Ⅰ オラルワークショップ(英語)Ⅱ
兼任	教授	日上 耕司 (60) <令和2年4月> 博士(心理学)	特別支援教育原論
兼任	教授	宮崎 佐利 (62) <令和2年4月> 教育学士	日本語基礎 文章表現法
兼任	教授	山川 友康 (73) <令和2年4月> 修士(社会学)	リハビリテーション概論 人間発達学
兼任	教授	山野 薫 (55) <令和2年4月> 博士(保健医療学)	医療安全管理学
兼任	教授	弓岡 光徳 (66) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)	チーム医療論演習
兼任	准教授	東 千冬 (58) <令和2年4月> 文学修士	対人援助演習Ⅱ※
兼任	准教授	城越 幸一 (57) <令和2年4月> 体育学士	対人援助演習Ⅱ※ スポーツ実技Ⅰ ヘルスプロモーション
兼任	准教授	秦 康宏 (56) <令和2年4月> 修士(学術)	多文化共生
兼任	講師	中山 奈々美 (37) <令和2年4月> 博士(医学)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	准教授	丸山 亜実 (49) <令和2年4月> 社会学士	対人援助演習Ⅱ※
兼任	講師	奥村 裕 (46) <令和2年4月> 修士(保健学)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	講師	金澤 佑治 (34) <令和2年4月> 博士(医学)	医療英語

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	中川 昭夫 (71) <令和2年4月> 博士(保健学)	リハビリテーション工学
兼任	教授	羽根 隆 (61) <令和2年4月> 文学士	オラルワークショップ(英語)Ⅰ オラルワークショップ(英語)Ⅱ
兼任	教授	日上 耕司 (61) <令和2年4月> 博士(心理学)	特別支援教育原論
兼任	教授	宮崎 佐利 (63) <令和2年4月> 教育学士	日本語基礎 文章表現法
兼任	教授	山川 友康 (74) <令和2年4月> 修士(社会学)	リハビリテーション概論 人間発達学
兼任	教授	山野 薫 (56) <令和2年4月> 博士(保健医療学)	医療安全管理学
兼任	教授	弓岡 光徳 (67) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)	チーム医療論演習
兼任	講師	芹田 卓身 (59) <令和3年4月> 修士(カウンセリング)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	准教授	城越 幸一 (58) <令和2年4月> 体育学士	対人援助演習Ⅱ※ スポーツ実技Ⅰ ヘルスプロモーション
兼任	准教授	秦 康宏 (57) <令和2年4月> 修士(学術)	多文化共生
兼任	准教授	丸山 亜実 (50) <令和2年4月> 社会学士	対人援助演習Ⅱ※
兼任	准教授	奥村 裕 (47) <令和2年4月> 修士(保健学)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	准教授	藤田 浩之 (40) <令和3年4月> 博士(健康科学)	医療英語

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	中川 昭夫 (72) <令和2年4月> 博士(保健学)	リハビリテーション工学
兼任	教授	羽根 隆 (62) <令和2年4月> 文学士	オラルワークショップ(英語)Ⅰ オラルワークショップ(英語)Ⅱ
兼任	教授	日上 耕司 (62) <令和2年4月> 博士(心理学)	特別支援教育原論
兼任	教授	宮崎 佐利 (64) <令和2年4月> 教育学士	日本語基礎 文章表現法
兼任	教授	杉原 久仁子 (58) <令和4年4月> 博士(社会学)	ジェンダー論
兼任	教授	山川 友康 (75) <令和2年4月> 修士(社会学)	リハビリテーション概論 人間発達学
兼任	教授	山野 薫 (57) <令和2年4月> 博士(保健医療学)	医療安全管理学
兼任	教授	弓岡 光徳 (68) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)	チーム医療論演習
兼任	講師	芹田 卓身 (60) <令和3年4月> 修士(カウンセリング)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	准教授	城越 幸一 (59) <令和2年4月> 体育学士	対人援助演習Ⅱ※ スポーツ実技Ⅰ ヘルスプロモーション
兼任	准教授	秦 康宏 (58) <令和2年4月> 修士(学術)	多文化共生
兼任	准教授	榎田 浩三 (51) <令和4年4月> 医学修士	対人援助演習Ⅱ※
兼任	准教授	丸山 亜実 (51) <令和2年4月> 社会学士	対人援助演習Ⅱ※
兼任	准教授	村上 雅彦 (46) <令和4年4月> 修士(教育学)	社会学 スポーツ実技Ⅰ
兼任	准教授	奥村 裕 (48) <令和2年4月> 修士(保健学)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	准教授	藤田 浩之 (41) <令和3年4月> 博士(健康科学)	医療英語

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	中川 昭夫 (73) <令和2年4月> 博士(保健学)	リハビリテーション工学
兼任	教授	箱井 英寿 (63) <令和5年4月> 社会学修士	情報処理演習Ⅰ
兼任	教授	羽根 隆 (63) <令和2年4月> 文学士	オラルワークショップ(英語)Ⅰ オラルワークショップ(英語)Ⅱ
兼任	教授	日上 耕司 (63) <令和2年4月> 博士(心理学)	特別支援教育原論
兼任	教授	宮崎 佐利 (65) <令和2年4月> 教育学士	日本語基礎 文章表現法
兼任	教授	山川 友康 (76) <令和2年4月> 修士(社会学)	リハビリテーション概論 人間発達学
兼任	教授	山野 薫 (58) <令和2年4月> 博士(保健医療学)	医療安全管理学※
兼任	教授	弓岡 光徳 (69) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)	チーム医療論演習
兼任	講師	芹田 卓身 (61) <令和3年4月> 修士(カウンセリング)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	准教授	城越 幸一 (60) <令和2年4月> 体育学士	対人援助演習Ⅱ※ スポーツ実技Ⅰ ヘルスプロモーション
兼任	准教授	榎田 浩三 (52) <令和4年4月> 医学修士	対人援助演習Ⅱ※
兼任	教授	丸山 亜実 (52) <令和2年4月> 社会学士	対人援助演習Ⅱ※
兼任	准教授	村上 雅彦 (47) <令和4年4月> 修士(教育学)	社会学 スポーツ実技Ⅰ
兼任	准教授	奥村 裕 (49) <令和2年4月> 修士(保健学)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	准教授	藤田 浩之 (42) <令和3年4月> 博士(健康科学)	医療英語

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	木下 亮平 (33) <令和2年4月> 修士(保健学)	対人援助演習Ⅱ※ 地域リハビリテーション学
兼任	助教	簡井 優介 (40) <令和2年4月> 修士(人間科学)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	助教	弓岡 まみ (32) <令和2年4月> 修士(健康福祉学)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	助教	釣井 達也 (34) <令和2年4月> 博士(理学)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	講師	赤田 知華子 (39) <令和2年4月> 修士(人間科学)	対人援助演習Ⅰ ジェンダー論
兼任	講師	穂久 宗徳 (49) <令和2年4月> 学士(農学)	対人援助演習Ⅰ
兼任	講師	伊藤 僚祐 (27) <令和2年4月> 修士(理学)	生物学
兼任	講師	上田 智巳 (44) <令和2年4月> 修士(文学)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	木下 亮平 (34) <令和2年4月> 修士(保健学)	対人援助演習Ⅱ※ 地域リハビリテーション学
兼任	助教	簡井 優介 (41) <令和2年4月> 修士(人間科学)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	助教	弓岡 まみ (33) <令和2年4月> 修士(健康福祉学)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	講師	中村 かおり (48) <令和2年4月> 修士(臨床教育学)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	講師	赤田 知華子 (40) <令和2年4月> 修士(人間科学)	対人援助演習Ⅰ ジェンダー論 人権と倫理
兼任	講師	穂久 宗徳 (49) <令和2年4月> 学士(農学)	対人援助演習Ⅰ
兼任	講師	伊藤 僚祐 (28) <令和2年4月> 修士(理学)	生物学
兼任	講師	上田 智巳 (45) <令和2年4月> 修士(文学)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	木下 亮平 (35) <令和2年4月> 修士(保健学)	対人援助演習Ⅱ※ 地域リハビリテーション学
兼任	助教	坂下 英淑 (36) <令和3年4月> 修士(心理臨床学)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	助教	弓岡 まみ (34) <令和2年4月> 修士(健康福祉学)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	講師	中村 かおり (49) <令和2年4月> 修士(臨床教育学)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	講師	赤田 知華子 (41) <令和2年4月> 修士(人間科学)	対人援助演習Ⅰ ジェンダー論 人権と倫理
兼任	講師	穂久 宗徳 (50) <令和2年4月> 学士(農学)	対人援助演習Ⅰ
兼任	講師	伊藤 僚祐 (29) <令和2年4月> 修士(理学)	生物学
兼任	講師	上田 智巳 (46) <令和2年4月> 修士(文学)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	木下 亮平 (36) <令和2年4月> 修士(保健学)	対人援助演習Ⅱ※ 地域リハビリテーション学
兼任	助教	坂下 英淑 (37) <令和3年4月> 修士(心理臨床学)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	助教	弓岡 まみ (35) <令和2年4月> 修士(健康福祉学)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	教授	須河内 貢 (59) <令和4年4月> 修士(心理学)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	助教	羽下 飛鳥 (43) <令和3年4月> 修士(学術)	教育心理学
兼任	助教	羽下 飛鳥 (44) <令和3年4月> 修士(学術)	教育心理学
兼任	講師	秋葉 理乃 (37) <令和4年4月> 修士(人間科学)	対人援助演習Ⅰ
兼任	講師	遠藤 格 (39) <令和4年4月> 修士(文学)	対人援助演習Ⅰ
兼任	講師	三好 智仁 (28) <令和4年4月> 修士(人間科学)	対人援助演習Ⅰ
兼任	講師	穂久 宗徳 (51) <令和2年4月> 学士(農学)	対人援助演習Ⅰ
兼任	講師	福家 悠介 (27) <令和4年4月> 修士(理学)	生物学
兼任	講師	上田 智巳 (47) <令和2年4月> 修士(文学)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
兼任	講師	片山 綾 (29) <令和4年4月> 修士(文学)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	木下 亮平 (37) <令和2年4月> 修士(保健学)	対人援助演習Ⅱ※ 地域リハビリテーション学
兼任	講師	神志那 武 (40) <令和5年4月> 修士(保健学)	医療安全管理学※
兼任	助教	坂下 英淑 (38) <令和3年4月> 修士(心理臨床学)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	助教	弓岡 まみ (36) <令和2年4月> 修士(健康福祉学)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	助教	清水 凌平 (28) <令和5年4月> 修士(教育学)	対人援助演習Ⅱ※
兼任	助教	羽下 飛鳥 (45) <令和3年4月> 修士(学術)	教育心理学
兼任	講師	秋葉 理乃 (38) <令和4年4月> 修士(人間科学)	対人援助演習Ⅰ
兼任	講師	三好 智仁 (29) <令和4年4月> 修士(人間科学)	対人援助演習Ⅰ
兼任	講師	穂久 宗徳 (52) <令和2年4月> 学士(農学)	対人援助演習Ⅰ
兼任	講師	大貫 漢介 (26) <令和5年4月> 修士(理学)	生物学
兼任	講師	上田 智巳 (48) <令和2年4月> 修士(文学)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	植田 瑞穂 (29) <令和2年4月> 心理学修士	対人援助演習 I
兼任	講師	遠藤 たまえ (58) <令和2年4月> 修士(人間科学)	対人援助演習 I
兼任	講師	奥村 命子 (54) <令和2年4月> 社会学士	ソーシャルマナー I ソーシャルマナー II
兼任	講師	木内 真弘 (57) <令和2年4月> 修士(学術)	スポーツ実技 I
兼任	講師	木戸口 恭子 (61) <令和2年4月> 文学士	視覚障害者への理解と点字
兼任	講師	金 波 (29) <令和2年4月> 修士(人間科学)	心理学入門
兼任	講師	藏内 茂 (51) <令和2年4月> 高等学校卒	スポーツ実技 II
兼任	講師	鴻上 圭太 (45) <令和2年4月> 修士(社会学)	対人援助演習 I
兼任	講師	佐藤 泰子 (59) <令和2年4月> 博士(人間・環境学)	医療倫理
兼任	講師	島村 敏生 (65) <令和2年4月> 文学士	オーラル・コミュニケーション(英語) I オーラル・コミュニケーション(英語) II コミュニケーション(英語) I コミュニケーション(英語) II
兼任	講師	白井 三千代 (60) <令和2年4月> 修士(国文学) ・修士(社会学)	対人援助演習 I
兼任	講師	高木 恭子 (47) <令和3年4月> 修士(工学)	人間工学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	植田 瑞穂 (30) <令和2年4月> 心理学修士	対人援助演習 I
兼任	講師	遠藤 たまえ (59) <令和2年4月> 修士(人間科学)	対人援助演習 I
兼任	講師	奥村 命子 (55) <令和2年4月> 社会学士	ソーシャルマナー I ソーシャルマナー II
兼任	講師	木内 真弘 (58) <令和2年4月> 修士(学術)	スポーツ実技 I
兼任	講師	木戸口 恭子 (62) <令和2年4月> 文学士	視覚障害者への理解と点字
兼任	講師	金 波 (30) <令和2年4月> 修士(人間科学)	心理学入門
兼任	講師	藏内 茂 (52) <令和2年4月> 高等学校卒	スポーツ実技 II
兼任	講師	鴻上 圭太 (46) <令和2年4月> 修士(社会学)	対人援助演習 I
兼任	講師	佐藤 泰子 (60) <令和2年4月> 博士(人間・環境学)	医療倫理
兼任	講師	島村 敏生 (66) <令和2年4月> 文学士	オーラル・コミュニケーション(英語) I オーラル・コミュニケーション(英語) II コミュニケーション(英語) I コミュニケーション(英語) II
兼任	講師	高木 恭子 (48) <令和3年4月> 修士(工学)	人間工学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	遠藤 たまえ (60) <令和2年4月> 修士(人間科学)	対人援助演習 I
兼任	講師	奥村 命子 (56) <令和2年4月> 社会学士	ソーシャルマナー I ソーシャルマナー II
兼任	講師	木内 真弘 (59) <令和2年4月> 修士(学術)	スポーツ実技 I
兼任	講師	木戸口 恭子 (63) <令和2年4月> 文学士	視覚障害者への理解と点字
兼任	講師	金 波 (31) <令和2年4月> 修士(人間科学)	心理学入門
兼任	講師	藏内 茂 (53) <令和2年4月> 高等学校卒	スポーツ実技 II
兼任	講師	鴻上 圭太 (47) <令和2年4月> 修士(社会学)	対人援助演習 I
兼任	講師	佐藤 泰子 (61) <令和2年4月> 博士(人間・環境学)	医療倫理
兼任	講師	島村 敏生 (67) <令和2年4月> 文学士	オーラル・コミュニケーション(英語) II コミュニケーション(英語) I コミュニケーション(英語) II
兼任	講師	高木 恭子 (49) <令和3年4月> 修士(工学)	人間工学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	遠藤 たまえ (61) <令和2年4月> 修士(人間科学)	対人援助演習 I
兼任	講師	東 節子 (65) <令和4年4月> 学士(文学)	ソーシャルマナー I
兼任	講師	宮村 ミエコ (56) <令和4年9月> 高等学校卒	ソーシャルマナー II
兼任	講師	木内 真弘 (60) <令和2年4月> 修士(学術)	スポーツ実技 I
兼任	講師	木戸口 恭子 (64) <令和2年4月> 文学士	視覚障害者への理解と点字
兼任	講師	金 波 (32) <令和2年4月> 修士(人間科学)	心理学入門
兼任	講師	藏内 茂 (54) <令和2年4月> 高等学校卒	スポーツ実技 II
兼任	講師	鴻上 圭太 (48) <令和2年4月> 修士(社会学)	対人援助演習 I
兼任	講師	黒田 翔大 (31) <令和3年4月> 博士(文学)	日本語基礎 文章表現法
兼任	講師	黒田 翔大 (32) <令和3年4月> 博士(文学)	日本語基礎 文章表現法
兼任	講師	佐藤 泰子 (62) <令和2年4月> 博士(人間・環境学)	医療倫理
兼任	講師	島村 敏生 (68) <令和2年4月> 文学士	オーラル・コミュニケーション(英語) I オーラル・コミュニケーション(英語) II
兼任	講師	高木 恭子 (50) <令和3年4月> 修士(工学)	人間工学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	遠藤 たまえ (62) <令和2年4月> 修士(人間科学)	対人援助演習 I
兼任	講師	東 節子 (66) <令和4年4月> 学士(文学)	ソーシャルマナー I
兼任	講師	宮村 ミエコ (57) <令和4年9月> 高等学校卒	ソーシャルマナー II
兼任	講師	木内 真弘 (61) <令和2年4月> 修士(学術)	スポーツ実技 I
兼任	講師	木戸口 恭子 (65) <令和2年4月> 文学士	視覚障害者への理解と点字
兼任	講師	金 波 (33) <令和2年4月> 修士(人間科学)	心理学入門
兼任	講師	山本 展明 (33) <令和5年4月> 修士(都市政策)	心理学入門
兼任	講師	藏内 茂 (55) <令和2年4月> 高等学校卒	スポーツ実技 II
兼任	講師	鴻上 圭太 (49) <令和2年4月> 修士(社会学)	対人援助演習 I
兼任	講師	黒田 翔大 (33) <令和3年4月> 博士(文学)	日本語基礎 文章表現法
兼任	講師	黒田 由衣 (39) <令和5年4月> 修士(社会福祉学)	社会福祉 I
兼任	講師	佐藤 泰子 (63) <令和2年4月> 博士(人間・環境学)	医療倫理
兼任	講師	島村 敏生 (69) <令和2年4月> 文学士	オーラル・コミュニケーション(英語) I オーラル・コミュニケーション(英語) II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名			
兼任	講師	添田 喜治 (44) <令和3年4月> 博士(学術)	聴覚心理学	兼任	講師	添田 喜治 (45) <令和3年4月> 博士(学術)	聴覚心理学	兼任	講師	添田 喜治 (46) <令和3年4月> 博士(学術)	聴覚心理学	兼任	講師	添田 喜治 (47) <令和3年4月> 博士(学術)	聴覚心理学			
				兼任	講師	高瀬 俊幸 (70) <令和2年4月> 歯学博士	臨床医学IV(耳鼻咽喉科学・聴覚医学) 臨床医学V(臨床歯科学・口腔外科学・形成外科学)	兼任	講師	高瀬 俊幸 (71) <令和2年4月> 歯学博士	臨床医学IV(耳鼻咽喉科学・聴覚医学) 臨床医学V(臨床歯科学・口腔外科学・形成外科学)			兼任	講師	出口(中社) 寛子 (41) <令和5年9月> 博士(工学)		
																人間工学		
														兼任	講師	寺田 哲也 (58) <令和4年4月> 博士(医学)		
										兼任	講師	寺田 哲也 (57) <令和4年4月> 博士(医学)				臨床医学IV(耳鼻咽喉科学・聴覚医学) ※		
														兼任	講師	東野 正明 (48) <令和4年4月> 博士(医学)		
														兼任	講師	東野 正明 (47) <令和4年4月> 博士(医学)		
														兼任	講師	臨床医学IV(耳鼻咽喉科学・聴覚医学) ※		
														兼任	講師	乾 崇樹 (46) <令和4年4月> 博士(医学)		
														兼任	講師	乾 崇樹 (45) <令和4年4月> 博士(医学)		
														兼任	講師	臨床医学IV(耳鼻咽喉科学・聴覚医学) ※		
														兼任	講師	矢野 優子 (47) <令和4年4月> 学士(医学)		
														兼任	講師	矢野 優子 (46) <令和4年4月> 学士(医学)		
														兼任	講師	臨床医学IV(耳鼻咽喉科学・聴覚医学) ※		
														兼任	講師	綾仁 悠介 (37) <令和4年4月> 博士(医学)		
														兼任	講師	綾仁 悠介 (36) <令和4年4月> 博士(医学)		
														兼任	講師	臨床医学IV(耳鼻咽喉科学・聴覚医学) ※		
														兼任	講師	河田 了 (64) <令和4年4月> 博士(医学)		
														兼任	講師	河田 了 (63) <令和4年4月> 博士(医学)		
														兼任	講師	臨床医学IV(耳鼻咽喉科学・聴覚医学) ※		
														兼任	講師	萩森 伸一 (59) <令和4年4月> 博士(医学)		
														兼任	講師	萩森 伸一 (58) <令和4年4月> 博士(医学)		
														兼任	講師	臨床医学IV(耳鼻咽喉科学・聴覚医学) ※		
														兼任	講師	菊岡 祐介 (37) <令和4年4月> 学士(医学)		
														兼任	講師	菊岡 祐介 (36) <令和4年4月> 学士(医学)		
														兼任	講師	臨床医学IV(耳鼻咽喉科学・聴覚医学) ※		
														兼任	講師	墨 哲郎 (66) <令和4年9月> 学士(歯学)		
														兼任	講師	墨 哲郎 (65) <令和4年9月> 学士(歯学)		
														兼任	講師	臨床医学V(臨床歯科学・口腔外科学・形成外科学)		
兼任	講師	田中 良 (41) <令和2年4月> 修士(言語教育情報学) ※	言語学 音声学 音響学															
兼任	講師	堤 聖月 (27) <令和3年4月> 修士(心理学)	発達心理学	兼任	講師	堤 聖月 (28) <令和3年4月> 修士(心理学)	発達心理学	兼任	講師	堤 聖月 (29) <令和3年4月> 修士(心理学)	発達心理学							
														兼任	講師	中嶋 沙也 (43) <令和4年4月> 学士(社会学)		
														兼任	講師	中嶋 沙也 (42) <令和4年4月> 学士(社会学)		
														兼任	講師	発達心理学		
														兼任	講師	中田(阿部) 英利子 (45) <令和4年4月> 博士(文学)		
														兼任	講師	中田(阿部) 英利子 (44) <令和4年4月> 博士(文学)		
														兼任	講師	臨床医学IV(耳鼻咽喉科学・聴覚医学) ※		
																障害者の心理 発達心理学		
兼任	講師	水流 寛二 (52) <令和2年4月> 体育学士	対人援助演習 I	兼任	講師	水流 寛二 (53) <令和2年4月> 体育学士	対人援助演習 I	兼任	講師	水流 寛二 (54) <令和2年4月> 体育学士	対人援助演習 I	兼任	講師	水流 寛二 (55) <令和2年4月> 体育学士	対人援助演習 I	兼任	講師	水流 寛二 (56) <令和2年4月> 体育学士
兼任	講師	田 麗 (60) <令和2年4月> 博士(医学)	内科学 臨床医学Ⅲ(小児科学)															
兼任	講師	豊島(山本) 彩 (30) <令和3年4月> 博士(人間科学)	高齢者の心理	兼任	講師	豊島(山本) 彩 (31) <令和3年4月> 博士(人間科学)	高齢者の心理											

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・「内科学」「臨床医学Ⅲ（小児科学）」の「田麗兼任講師」を「山岸正和教授」に変更。
- ・「基礎医学Ⅰ（医学総論・病理学）」「基礎医学Ⅱ（解剖学・生理学）」を「山岸正和教授」から「阪本英二兼任教授」に変更
- ・「臨床医学Ⅳ（耳鼻咽喉科学・聴覚医学）」「臨床医学Ⅴ（臨床歯科学・口腔外科学・形成外科学）」を「山岸正和教授」から「高瀬俊幸兼任講師」に変更
- ・専任「田中良助教」就任、兼任講師から変更（「言語学」「音声学」「音響学」担当）。
- ・「言語発達学」の「宮地ゆうじ助教」を「田中良助教」に変更。
- ・「オールワークショップ（英語）Ⅰ」「オールワークショップ（英語）Ⅱ」の担当教員に「羽根隆兼任教授」を追加。
- ・「対人援助演習Ⅱ」の「榎田浩三兼任教授」を「中山奈々美兼任講師」に、「釣井達也兼任助教」を「中村かおり兼任講師」に変更。
- ・「人権と倫理」の「藤井渉兼任講師」を「赤田知華子兼任講師」に変更。
- ・「スポーツ実技Ⅰ」の担当教員に「木谷織信兼任講師」を追加。
- ・「日本語基礎」「文章表現法」の担当教員に「斎藤佳子兼任講師」を追加。
- ・「対人援助演習Ⅰ」の担当教員から「白井三千代兼任講師」を退職により削除。
- ・「数学の原理」「社会人基礎学力（数学）」の「平井崇晴兼任講師」を「後藤田洋介兼任講師」に変更。
- ・「心理学入門」の担当教員に「藤村邦博兼任講師」を追加。

【令和3年度】

- ・専任「田中保和教授」辞任。
- ・「辻薫兼任教授」の就任年月を「令和2年9月」から「令和3年1月」に変更。
- ・「対人援助演習Ⅱ」の「田中保和兼任教授」「東千冬兼任教授」「筒井優介兼任助教」を「井上博司兼任教授」「芹田卓身兼任講師」「坂下英淑兼任助教」に変更。
- ・「医療英語」の「金澤佑治兼任講師」を「藤田浩之兼任教授」に変更。
- ・「教育心理学」の「藤村邦博兼任講師」を「羽下飛鳥兼任助教」に変更。
- ・「対人援助演習Ⅰ」の担当教員から「植田瑞穂兼任講師」を退職により削除。
- ・「日本語基礎」「文章表現法」の「斎藤佳子兼任講師」を「黒田翔大兼任講師」に変更。
- ・「オールワークショップ（英語）Ⅰ」の担当教員から「島村敏生兼任講師」「平柳行雄兼任講師」を削除し、「大庭（山田）夕穂兼任講師」を追加。
- ・「オールワークショップ（英語）Ⅱ」の担当教員から「平柳行雄兼任講師」を削除し、「大庭（山田）夕穂兼任講師」を追加。
- ・「高齢者の心理」の「豊島（山本）彩兼任講師」を「石川久美子兼任講師」に変更。
- ・「心理学入門」の担当教員から「藤村邦博兼任講師」を削除。
- ・「聴覚障害者への理解と手話」の「山口信子兼任講師」を「河本環兼任講師」に変更。
- ・職名の変更。「宮地ゆうじ助教」を「宮地ゆうじ講師」に、「奥村裕兼任講師」を「奥村裕兼任教授」に変更。

【令和4年度】

- ・専任教員に「井上博司教授」を追加。
- ・専任「岡孝夫助教」の担当科目に「高次脳機能障害学演習」を追加。
- ・専任「田中良助教」の担当科目に「言語聴覚学演習Ⅰ」を追加。
- ・「言語聴覚特別演習Ⅰ」の「青木弥穂助教」「岡孝夫助教」を「田中良助教」に変更。
- ・「発声発語障害学演習（運動障害性構音障害・音声障害・吃音）」の「岡孝夫助教」を「宮地ゆうじ講師」に変更。
- ・「臨床医学Ⅳ（耳鼻咽喉科学・聴覚医学）」の「高瀬俊幸兼任講師」を「田中良助教」「寺田哲也兼任講師」「東野正明兼任講師」「乾崇樹兼任講師」「矢野優子兼任講師」「綾仁悠介兼任講師」「河田了兼任講師」「萩森伸一兼任講師」「菊岡祐介兼任講師」に変更。
- ・「人権と倫理」の「赤田知華子兼任講師」を「武田卓也兼任教授」に変更。
- ・「ジェンダー論」の「赤田知華子兼任講師」を「杉原久仁子兼任教授」に変更。
- ・「対人援助演習Ⅱ」の「中山奈々美兼任講師」「中村かおり兼任助教」を「榎田浩三兼任教授」「須河内貢兼任教授」に変更。
- ・「社会学」の担当教員に「村上雅彦兼任教授」を追加。
- ・「対人援助演習Ⅰ」の「赤田知華子兼任講師」「石原昂侑兼任講師」を「秋葉理乃兼任講師」「遠藤格兼任講師」「三好智仁兼任講師」に変更。
- ・「生物学」の「伊藤僚祐兼任講師」を「福家悠介兼任講師」に変更。
- ・「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」の担当教員に「片山綾兼任講師」を追加。
- ・「ソーシャルマナーⅠ」の「奥村命子兼任講師」を「東節子兼任講師」に変更。
- ・「ソーシャルマナーⅡ」の「奥村命子兼任講師」を「宮村ミエコ兼任講師」に変更。
- ・「オールワークショップ（英語）Ⅰ」の担当教員に「島村敏生兼任講師」を追加。
- ・「コミュニケーション（英語）Ⅰ」「コミュニケーション（英語）Ⅱ」の「島村敏生兼任講師」を「高松琢麻兼任講師」に変更。
- ・「臨床医学Ⅴ（臨床歯科学・口腔外科学・形成外科学）」の「高瀬俊幸兼任講師」を「墨哲郎兼任講師」に変更。
- ・「発達心理学」の「堤聖月兼任講師」を「中嶋沙也兼任講師」「中田（阿部）英利子兼任講師」に変更。
- ・「オールワークショップ（英語）Ⅰ」「オールワークショップ（英語）Ⅱ」の「大庭（山田）夕穂兼任講師」を「高松琢麻兼任講師」に変更。
- ・「心理測定法」の「廣瀬翔平兼任講師」を「島裕兼任講師」に変更。
- ・「学習心理学」の「廣瀬翔平兼任講師」を「西田勇樹兼任講師」に変更。

【令和5年度】

- ・専任「山岸正和教授」の担当科目から「言語聴覚特別演習Ⅳ」を削除。
- ・専任「田中良助教」の担当科目に「FA演習」「言語聴覚特別演習Ⅳ」「言語聴覚障害学演習」「言語聴覚学演習Ⅱ」を追加。
- ・「言語聴覚特別演習Ⅱ」の担当教員から「山岸正和教授」「安井美鈴兼任教授」「宮地ゆうじ講師」「岡孝夫助教」を削除し、「田中良助教」を追加。
- ・「言語聴覚特別演習Ⅲ」の担当教員から「山岸正和教授」「川井久和教授」を削除。
- ・「聴覚心理学」の担当教員を「添田喜治兼任講師」から「田中良助教」に変更。
- ・「医療安全管理学」の担当教員に「辻薫兼任教授」「神志那武兼任講師」を追加。
- ・「医学知識」の「久家義之兼任教授」を「岩井圭司兼任教授」に変更。
- ・「対人援助演習Ⅱ」の「鶴野隆浩兼任教授」「須河内貢兼任教授」を「大野まどか兼任教授」「清水凌平兼任助教」に変更。
- ・「情報処理演習Ⅰ」の担当教員を「片山綾兼任講師」から「箱井英寿兼任教授」に変更。
- ・「情報処理演習Ⅱ」の担当教員から「片山綾兼任講師」を退職により削除。
- ・「ジェンダー論」の「杉原久仁子兼任教授」を「杉原久仁子兼任講師」に変更。
- ・「多文化共生」の「秦康宏兼任教授」を「秦康宏兼任講師」に変更。
- ・「スポーツ実技Ⅰ」の「木谷織信兼任講師」を「村上雅彦兼任教授」に変更。
- ・「対人援助演習Ⅰ」の担当教員から「遠藤格兼任講師」を退職により削除。
- ・「生物学」の「福家悠介兼任講師」を「大貫溪介兼任講師」に変更。
- ・「心理学入門」の担当教員に「山本展明兼任講師」を追加。
- ・「社会福祉Ⅰ」の「鶴野隆浩兼任教授」を「黒田由衣兼任講師」に変更。
- ・「人間工学」の「高木恭子兼任講師」を「出口（中辻）寛子兼任講師」に変更。
- ・「障害者の心理」の「中路曜子兼任講師」を「中田（阿部）英利子兼任講師」に変更。
- ・前年度後期より「高齢者の心理」の「石川久美子兼任講師」を「春日彩花兼任講師」に変更。
- ・「数学の原理」「社会人基礎学力（数学）」の「後藤田洋介兼任講師」を「我藤諭兼任講師」に変更。
- ・「オールワークショップ（英語）Ⅰ」「オールワークショップ（英語）Ⅱ」の担当教員に「大庭（山田）夕穂兼任講師」を追加。
- ・前年度より「臨床心理学」の担当教員に「南野綺子兼任講師」を追加し、今年度より「石川眞理子兼任講師」を「南野綺子兼任講師」に変更。
- ・職名の変更。「丸山亜実兼任教授」を「丸山亜実兼任助教」に変更。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
8 名	4 名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。
 ・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計（A）	助手（A'）	教授	准教授	講師	助教	計（B）	助手（B'）
4	1	0	3	8	0	4	1	1	3	9	0
(4)	(1)	(0)	(3)	(8)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計（C）	助手（C'）	教授	准教授	講師	助教	計（D）	助手（D'）
4	1	1	3	9	0	4	1	1	3	9	0
[0]	[0]	[1]	[0]	[1]	[0]	[0]	[0]	[1]	[0]	[1]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	3 名	3 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{9}{8} = \boxed{112.5} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{3}{9} = \boxed{33.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C'）}}{\text{設置時の計画（A'）}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計（D）					後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計（F）					後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）					後任補充状況の集計（E）+（G）					
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{8} = 0 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
- ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F)と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由							
1	教授	田中 保和	必修	対人援助演習Ⅱ	①	R3.3.31付け70歳で定年退職(3)							
合計			後任補充状況の集計										
辞任した教員数		担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)	②の合計数(b)	③の合計数(c)							
1	人	必修	1	科目	必修	1	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	1	科目	計	1	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画
認可時 (令和元年)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について着実に実施すること。	【認可】 遵守事項 本学部の教育研究の水準を維持向上させるために、教員組織編成の将来構想を明確にした。また、今後の採用計画の方針についても策定した。	履行中 本学部の専任教員の内、本学の定める「教育職員の定年（65歳）」を超えるものが完成年度において9名となる。この9名の教授する科目分野を中心とした若手教員の採用について積極的に行う予定である。
設置計画履行状況 調査結果 (令和2年)	該当なし		
設置計画履行状況 調査結果 (令和3年)	該当なし		
設置計画履行状況 調査結果 (令和4年)	比較的高い割合で退学者等が発生していることから、退学等の理由を踏まえた退学者等の減少のための効果的な取組を着実に実行すること。	【AC】 指摘事項 (改善) 本学科の中退防止の取組の中で、在学生の支援体制のファカルティアドバイザー制（FA制度）を活用して、1・2年次生はFA教員が、3・4年次生はゼミ担当教員が個別面談を実施し、個々の学生の修学支援サポートを強化している。また、希望進路とのミスマッチ防止についても、令和5年度募集より入試改革を実施し、アドミッションポリシーに見合った生徒を確保するために選抜方法の変更を行った。	履行中 在学生支援のファカルティアドバイザー制（FA制度）に加えて、「副担当制」を活用し、職員がそれぞれのFA教員と連携して教職協働で個々の学生に対するきめ細かいサポートを実施していく。また、大学事務局内に設置の「学生支援センター」、「学習支援室」、「学生相談室」との連携も強化し、引き続き中退防止の取組について全学を挙げて取り組んでいく。

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4) (5)」と記載してください。
 - 【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<保健医療学部 言語聴覚学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学では開学以来「FD委員会」を設置し、FD活動を推進してきた。委員長は教学部長であり、各学科の代表委員と幹部事務職員でその活動を行っている。なお、平成29年度からはSDの義務化に対応するために「FD委員会」と「SD委員会」を統合し、「FD・SD委員会」として活動を行っている。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

「FD・SD委員会」は毎月1回の定例委員会を開催している。参加メンバーは、教学部長を委員長とし、各学科から教員が1名ずつ委員となっている。定例委員会の教員の参加率は100%に近い。また、年に1回以上は委員会主催の「FD・SD研修会」を全教職員対象に実施している。令和4年度は令和5年2月に「学習評価」をテーマとして事前の動画視聴を促した上で対面形式の研修会を実施した。

c 委員会の審議事項等

令和4年度の「FD・SD委員会」は、①新任教員オリエンテーションの開催について、②「学生による授業評価」の実施について、③教員相互による授業参観の実施について、④FD・SD研修会について、⑤シラバス点検について、⑥学外の各種FD研修会や他大学の取り組み研究などについて、実施の準備から実施結果の反省まで討議・審議を行った。

② 実施状況

a 実施内容

- ・新任教員オリエンテーション研修会(4月)
- ・学生による授業評価(7月～8月、1月～2月)
- ・教員相互による授業参観の実施(11月～2月)
- ・FD・SD研修会(2月)
- ・シラバス点検(3月)

b 実施方法

・「新任教員オリエンテーション研修会」は毎年4月に実施し、新任教員が参加している。
・「学生による授業評価」は前期・後期ともに、ほぼすべての科目について実施し、その結果を学生と教員に公開した。また、教員に対してはアンケート結果を受けての授業改善計画（リフレクション）の作成・提出の依頼を行った。
・「教員相互による授業参観」については新型コロナウイルス感染症対策のため、対面での授業参観もしくは授業動画視聴のハイブリッド方式で実施をした。
・「FD・SD研修会」は、令和4年度は「学習評価」をテーマとした動画教材を各自が事前視聴した上で、令和5年2月に対面での研修会を実施した。
・「シラバス点検」については、FD・SD委員が中心となりシラバス点検委員会を構成し、所属学科の授業科目を中心にシラバス点検を実施した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・「新任教員オリエンテーション研修会」は、令和4年度は5名中4名が、令和5年度は4名中3名が対面で参加した。
- ・「学生による授業評価」は、前期・後期それぞれの授業科目について専任教員・非常勤講師ともにほぼ全ての教員が実施した。
- ・「教員相互の授業参観」では、各学科から提供された17科目の授業について、対面参観もしくは授業動画視聴を実施し、全体の55%にあたる47名からのアンケート回答を得た。
- ・「FD・SD研修会」は「学習評価」をテーマとした動画教材の事前視聴を促した上で対面研修を実施し、全専任教員88名のうち73%にあたる64名が参加した。
- ・「シラバス点検」は令和5年度の大学での開講科目全987科目すべてについて点検を実施し、授業担当教員に必要な修正依頼等を行った。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

年2回実施している学生による授業評価は定着している。学生にフィードバックするとともに、教員自身の自分の授業を見つめてもらう目的で、リフレクションペーパーを提出してもらっている。
また、「学修ポートフォリオ」の活用についてもその活用状況調査を実施し、専任教員・非常勤講師ともに活用の促進を図っている。
シラバス点検では、委員が他の教員のシラバス点検を実施することで、シラバスの改善だけでなく点検委員としてのFDを図ることができている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

学生による授業評価は、毎年度2回（前期と後期）実施している。授業担当教員はその結果を受けてリフレクションペーパーを作成することで授業改善に役立てることとしている。令和4年度からはアンケート結果だけでなく、当該授業科目の成績分布に基づくリフレクションも依頼をし、授業の到達目標に対する修得状況からの授業改善の検討も行った。

b 教員や学生への公開状況、方法等

結果の利用については、当該授業担当教員への返却だけでなく、学内SNSであるユニバーサルパスポート上で学生及び教職員にも公開している。また、ユニバーサルパスポート上での公開に加えて、全体の集計結果については大学ホームページでも公開している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

「共生社会」の実現を目指す本学の教育において、保健医療学部は「人間の日常生活の保障」を目指すべき理念としている。

保健医療学部では、学士課程において理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成教育を実施し、国家資格取得を目指すとともに、対人援助の職に就くために必須となる倫理観からコミュニケーション能力まで包含した全人教育を実施する。

保健医療の知識や、高齢者、障がい児・者への理解をベースに、人間のからだのしくみをはじめ、地域社会におけるリハビリテーションの在り方に至る学びを通し、小児から高齢者まで、幅広い層の対人援助に対応できる実践能力を備えた人間味豊かな理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の育成を目指すと共に、保健医療、福祉領域の発展に貢献していくことを教育研究上の目的としている。

令和5年に完成年度を迎えた本学部は、大学全体として掲げる「明るい未来に向け、チーム支援を先導できる「対人援助の専門職業人」を育成し、日本の課題に挑戦する大学」に基づく令和元年度からの新生5か年計画の下、学部としての目的達成を図るべく教育活動を進めていく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和4年9月公表

b 公表方法

- ・大学ホームページで公開(<https://www.ohs.ac.jp/>)

③ 認証評価を受ける計画

・平成29年度に評価機関（公益財団法人日本高等教育評価機構）による大学機関別認証評価を受審し、「大学 評価基準に適合しているとの認定」を得た。次回は令和6年度を計画している。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。